'21 2

No.394

あなたが創る生協の書評誌



話題の本棚

鈴木哲也著『学術書を読む』

読書猿著『独学大全 絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法』 特集/からだ

新刊コーナー/新書コーナー/私の本棚

〒606-8316

京都市左京区吉田二本松町 吉田南生協会館2階

Tel:771-6211 / E-mail:teiyo@s-coop.net

綴葉HP: http://www.s-coop.net/about seikyo/public relations/



「危機の時代」に、専門外の「学術書」を繙く意義を考える

学術書を読む

京都大学学術出版会鈴木哲也著



とある書評誌の、オンライン上での編集会議にて。ひとりのベテン編集委員さんが、こんなことを言っていた(と思う)。すなわラン編集委員さんが、こんなことを言っていた(と思う)。すなわラン編集委員さんが、こんなことを言っていた(と思う)。すなわった。本を選んで書評すべきで……」。じゃあ「専門性のある本」って、る本を選んで書評すべきで……」。じゃあ「専門性のある本」って、る本を選んで書評すべきで……」。じゃあ「専門性のある本」って、る本を選んで書評さべきで……」。

した価値と価値の間にある対立を根本的な次元で捉え直す「現場のむことの意味を「考える」パートである。現代においては、多様化内容は三部構成になっている。第1部では、専門外の学術書を読

「哲学」を解く鍵となることが、まずここで考察される。とで得られる「専門外の学び」が、専門的な枠組みを超えたこのけられがちなどころもある「学術書」を、あえて手にとって読むこ哲学」が求められている。「わかりやすい」本に押され、どこか避

「選ぶ」と題された第Ⅱ部では、そんな学術書の選書法を具体的「選ぶ」と題された第Ⅲ部では、それで対ったであるかという点など、実際に本を選ぶ上でのポイとに書かれた本であるかという点など、著者は専門外の学術書をに紹介する。自らの専門的関心との遠近、および扱われている内容に紹介する。自らの専門的関心との遠近、および扱われている内容に紹介する。自らの専門的関心との遠近、および扱われている内容に紹介する。自らの専門的関心ともに挙げられている。

とりの大学院生として、非常に身に迫るものを感じた。とりの大学院生として、非常に身にはわかりやすい数値へと還元さクトファクター」などの、見た目にはわかりやすい数値へと還元さクトファクター」などの、見た目にはわかりやすい数値へと還元さクトファクター」などの、規定目にはわかりやすい数値へと還元さかの現状への著者からの批判が綴られる。学術的な評価が「インパ界の現状への著者からの批判が綴られる。学術的な評価が「インパ界の現状への著者からの批判が綴られる。学術的な評価が「インパ界の男工が会員という。

の専門外の「学術書」を繙くこととしようか。

(八雲)
り方を改めて問い直す「現場の哲学」を見据えながらひとつ、自分く役に立たない。知識の専門性を超えた、より深い次元で世界の在下にあっては、これまでの常識は通用せず、小手先の知識もまった重大局面に立たされている。一ヶ月先の動向も見通せないこの状況重大局面に立たされている。一ヶ月先の動向も見通せないこの状況重大局面に立たされている。一ヶ月先の動向も見通せないこの状況重大局面に立たされている。

(一三八頁 本体一五〇〇円 10月刊)

人で学ぶ君へ

読書猿著 ダイヤモンド社たくない人のための55の技法を対に「学ぶこと」をあきらめ独対に「学ぶこと」をあきらめ



今年、いや去年は大学にとって、勉強にとって大きく変わった年 今年、いや去年は大学にとって、勉強にとって大きく変わった年 だった。キャンパスに行けない、他の学生と知り合う機会がない。 大学生だという実感を一番持てていないのは新入生だろう。遊ぶだけならオンライン上で何とかなるかもしれない。だが学生に必要な「学ぶ」ことに関して新しいステージに上がったばかりなのに頼る相手がいないのは問題だ。そこでおすすめしたいのが本書である。 第一部では学ぶことの動機付けと学ぶ機会の捻出のしかたを説明してくれる。それぞれに目標はあるだろう。試験のため、レポートのため、就活のため。今までも何か目標に向かって勉強や練習をしていたはずだ。ただ、これまで人と一緒に努力できたのが、今は一人で管理し、実行する必要がある。一人だと怠ける。はい、そこで本書を見てみよう。やる気が出ない時、まずは「2ミニッツ・スターター」で行動してから考えろ。継続は力なり、だが失敗しがち。では反対に「怠けることに失敗する」のはどうだろう。こんな感じで色々と克服の方法が提示される。

それでは第二部、何を学ぶかについての始まり始まり。まずは学ぶいう方法をとればいいのか? というのが次の問題として現れる。さて、目標や勉強の習慣づけは出来ているが、達成のためにどう

リスト整理などのやり方が充実して記載されている。 リスト整理などのやり方が充実して記載されている。 リスト整理などのやり方が充実して記載されている。 リスト整理などのやり方が充実して記載されている。 リスト整理などのやり方が充実して記載されている。 リスト整理などのやり方が充実して記載されている。 リスト整理などのやり方が充実して記載されている。

そんな疑問が出てきたら第三部を参照しよう。話は遡るが、8・9月号の本誌(No.390)で『積読こそが完全な読書術である』を評したことを覚えているだろうか。見つかった資料が未読で堆積していたが、本書でも「転読」、「限読」など簡潔な命名で様々な読み方、さらにはノートの取り方や内容の記憶法までまとめられている。「少しのことにも先達はあらまほしきものなり」という教訓はあるが、生身の先達に会うことが難しいのが現状だ。ただ、勉強という山に登るのに少なくとも地図やガイドブックがあれば一人でも進みやすい。本書は便利なガイドブックである。分厚いが辞書のように小口のインデックスが見える装丁になっているのでそこからパラパラ見るだけでもいい。独学の必要性はこれからも高まる。困ったパラ見るだけでもいい。独学の必要性はこれからも高まる。困ったときには人ではなく本に頼るのも一計だ。

からだ



こにある物理的な肉体――身体――うか。「からだ」と聞くと、今、こうか。「からだ」と聞くと、今、こうか。「からだ」と聞くと、今、こ

で完結するものであるとは限らない。かし、「からだ」は自分の肉体だけをイメージする人も多いだろう。し

だ。この特集では、我々の「生」と係性の中に立ち現れることもあるの係性の中に立ち現れることもあるの

なる角度から迫ってゆく。(ましゅ)密接な「からだ」を巡る諸相に、異

少年漫画と「からだ」

時代を超えて愛される少年漫画。その中に時代を超えて愛される少年漫画でいた。からだ」を持った人々が登場する。本章では、完結した漫画作品を三作取りたよって何が表現されているのか、というでとを考えていきたい。

鋼の身体と人間の不完全さ

集金術師』(ガンガンコミックス)。 亡き母を 錬金術師』(ガンガンコミックス)。 亡き母を ダークファンタジーの金字塔である『鋼の



のエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、銀金での力を関がれて、乗りて方能な魔法などではなく、「等術は、決して万能な魔法などではなく、「等術は、決して万能な魔法などではなく、「等術は、決して万能な魔法などではなく、「等術は、決して万能な魔法などではなく、「等術は、決して万能な魔法などではなく、「等術は、決して大いの果てに成長した主人公のエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、錬金術の力を自ら捨て去り、鋼ののエドが、銀金術の力を自ら捨て去り、鋼の

を が語が、一人の人間としての無力さを受け入物語が、一人の人間としての無力さを受け入りの の不完全さを認め、他者に支えられ生きているという彼の生き方を、まさしく象徴していままの「からだ」は、自分の不完全さを認め、他者に支えられ生きていくという彼の生き方を、まさしく象徴していくという彼の生き方を、まさしく象徴している。

人工の身体と道具的存在からの解放

は幕を降ろす。一見すると、残酷で救いのな ち殺すことであり、これで、この二人の物語 は、錯乱したヘンリエッタに撃ち殺されると ず、彼女を道具のように扱うことを、強く拒 と呼ばれ、担当官と二人一組になり、反政府 『GUNSRINGER GIRL』(電撃コミックス の内容の残酷さが話題となった、問題作 たちが、テロリストと戦わされるという、そ 選んだ選択は、心中を望むヘンリエッタを撃 いう運命だ。そして、瀕死のジョゼが最後に んでいた。しかし、最後に彼を待っていたの であるヘンリエッタに対して、情を捨てきれ 戦い続ける。担当官であるジョゼは、「義体 絶版)。人工の身体を有する彼女らは「義体 組織である「五共和国派」の殲滅を目的に、 イタリアを舞台に、身体を改造された少女 きしめることが、この物語が出した「愛」に

放であったのではないだろうか。
ること、それこそが、道具的な存在からの解ること、それこそが、道具的な存在からの解しい。

「Turk」では、アノコへでは、一つになった「からだ」と「愛

は、借金に追われる
「無難だ」の悪魔であるポチタ公のデンジとチェンソーの悪魔であるポチタ

苦しい生活を共にし

ていた。しかしある日、

れたことをきっかけ

に、ポチタは彼に自分の心臓を与え、二人は「チェンソーマン」という一人のヒーローになった……。かつて、デンジはポチタに、自分が死んだら身体を乗っ取って、自分が夢見た。デンジからすれば、自分の身体をポチタにあげることが「愛」であり、ポチタからすれば、デンジに自分の心臓を与えるという行為が、「愛」の体現であった。そう考えると為が、「愛」の体現であった。そう考えると為が、「愛」の体現であった。そう考えるともは、「からだを一つにする」ということによる、最上の「愛」の体現であると言えるかもしれない。しかし、それはどこか悲しいのもしれない。しかし、それはどこか悲しいのもしれない。しかし、それはどこか悲しいのもしれない。しかし、それはどこか悲しいのもしれない。しかし、それはどこか悲しいのもしれない。しかし、それはどこかましいのもしれない。しかし、それはどこかを与えている。

いることがわかるだろう。しかし、巻頭言で「からだ」が物語の重要なテーマを表現してこのように意識して読み解いてみると、ついての最後の答えなのである。

では、文学作品を通して、これを見ていこう。肉体をも超えたものに宿ることがある。次章も触れたように、「からだ」は時に、生者の

「からだ」を感じる刹那

前章では漫画を題材に、生者の肉体に存す前章では漫画を題材に、生者の肉体に存すだ」の多様な姿を文学から確認しよう。

毛皮の中にみるからだ

まずはバルザックの『あら皮』(藤原書店)を取り上げよう。放蕩の限りを尽くし、寄るを取り上げよう。放蕩の限りを尽くし、寄るですることにした。店には数々の珍品。その中でロバの毛皮である「あら皮」と邂逅したことから彼の人生は大きく動いていく。たことから彼の人生は大きく動いていく。たことから彼の人生は大きく動いていく。たことから彼の人生は大きく動いていく。たことから彼の人生は大きく動いていく。たことから彼の人生は大きく動いている者のあらゆる望みを叶えてくれる――余命と引き換えに。余命が縮まるに従って皮も縮む。その魔力に恐れをなした彼は決心する、「あら皮は虎のようなもので、その残忍さを目覚めさせずに、これとともに暮らしていかねばめさせずに、これとともに暮らしていかねばめさせずに、これとともに暮らしていかねばめさせずに、これとともに暮らしていかねば

たあら皮を手に「これがぼくの麗しい人生のたあら皮を手に「これがぼくの麗しい人生のが、否彼の生そのものが死を招く。いつしかが、否彼の生を向くのは人間の性で、彼の決心なだが欲望を抱くのは人間の性で、彼の決心なだが欲望を抱くのは人間の性で、彼の決心なだが欲望を抱くのは人間の性で、彼の決心ない。幸いなる哉手にした欲望や権力ならない」。幸いなる哉手にした欲望や権力ならない」。幸いなる哉手にした欲望や権力ならない」。

剃刀の中にみるからだ

ル、その「からだ」が宿り、その人生が生き体となっている。欲望に命を削ったラファエ

は操りつられの関係ではない。分かち難く一姿さ」と彼は語る。もはやあら皮と彼の人生

たのは「あら皮」であったと言えるだろう。

で確認しよう。貧しい出自の樽見京一郎が強うか。水上勉の『飢餓海峡』(下、新潮文庫)言える。では全くの無機物との繋がりではどであるが、元はロバの毛皮であり有機的ともであるが、元はロバの毛皮であい異質なモノアレゴリックなあら皮は確かに異質なモノ

去が暴かれるまでを描 で財を築き、やがて過 いた本作。ここにおい



彼女の心に魅かれ大金を渡す。その金で借金 在は読む者の心を掴んで離さない。 て樽見に淡い慕情を抱く酌婦・杉戸八重の存 彼女は樽見が逃亡途上に買った女、樽見は

た剃刀だった。 に持っていたのが、一夜の逢瀬で樽見が使っ 女は彼を訪ね、殺められる。その彼女が大事 念を抱かせた。一〇年の後、素性を知った彼

謎多き恩人で、その武骨さは忘れ得ぬ思慕の を清算し自由になった彼女にとって、樽見は

臭いを嗅ぎ、夜毎眺めたのかもしれない。幻 たあなたの思い出(中略)。これも、あなた しく読者の中に広がる。彼女は剃刀に男の の男を慕う八重の様子は多層的に一際もの哀 好かれる明るい人だった。」彼女は刃を撫で んという人は(中略)心のきれいな、誰にも の体臭がのこっていたかもしれない。八重さ 明かされる。「生命の恩人のように思ってい 身でなく、真実を追う者たちの想見によって からだ」を見たのではないか。 なぜ剃刀を取っていたのか、それは八重自

人との間にみるからだ

ここまでモノとの繋がりに見出す「から

うと意気込む彼の前に出てきたのは、紅白饅 語。母子家庭で、かつ母親とは血が繋がらな この一文で始まる瀬尾まいこの「卵の緒 る「からだ」を見てみよう。「僕は捨て子だ。」 だ」を見てきた。最後は人との繋がりにおけ 頭の箱に入った「卵の殻」だった……。 母親に懇願する。捨て子疑惑に決着をつけよ いと疑う育生は、へその緒が見たいとある日 (『**卵の緒**』所収、新潮文庫)はユニークな物

そんな問いが見え隠れするように思う。母親 という深遠な問題に取り組む彼の内奥には、 なやりとりに支えられつつ、彼は少しずつ学 の正直で底抜けの明るさや彼女とのコミカル 繋がり、どこに存するのか。「親子の証し」 自分の身体はどこから生まれたのか、誰と

> 刹那、何も見ることが出来なかった育生。そ ではないだろうか。「からだ」とは、その健 なくてとても確かなもの。」彼は気づいたの とも分かった。それはもっと、掴みどころが 母親にそう言われてギュッと抱きしめられた んな彼も物語の最後にはこう述べている。 んでいく。「親子の証し」を見せてあげる、 親子の絆はへその緒でも卵の殻でもないこ

り」を更に深く見てみよう。 出で、モノや人との間に宿る。この手触りを 私たちに示してくれる。次章では生の「手触 確かめながら生きること、文学はその尊さを 「からだ」、それは時に生者の肉体から憧れ る、目に見えないが確かな手触りなのだと。

康な肉体とそして、愛する人たちとの間にあ

·からだ」に「ふれ」、つながること

ない。愛と勇気の味がする、永い「ふれ合 い」がなければ――。 らだ」そのものだけで「つながり」は生まれ モノや人をつなぐ「からだ」。しかし「か

「からだ」に「ふれる」

れる本が、二〇二〇年度のサントリー学芸賞 ない「触覚」についての思索を深めさせてく 普段多くの人が視覚や聴覚ほど意識してい

究者である。

様々な障害のある としつつも、『記憶する体』などの著書で 談社メチエ選書)である。伊藤は美学を専門 を受賞した伊藤亜紗の著書『手の倫理』(講 方を当事者と共に ハ々の世界の見え の倫理



伊藤は本書の冒頭で、物としての特徴や性 伊藤は本書の冒頭で、物としての「さわ 高」と、人間的なかかわりであり相互的な動 高」と、人間的なかかわりであり相互的な動 傷口に「さわる」と、傷口に「ふれる」。前 傷口に「さわる」と、傷口に「ふれる」。前 傷口に「さわる」と、傷口に「ふれる」。前 傷口に「さわる」と、傷口に「ふれる」。前 のことが不可欠である。

ただ、「ふれ合い」の成立はそう簡単ではない。第三章「信頼」に登場する全盲の西島ない。第三章「信頼」に登場する全盲の西島ない。第三章「信頼」に登場する全盲の西島のなどをしてもらう時、その人に「だまされる覚悟で委ねる」という。ありがたいとは思うものの、そのような不確実性を知りつつ、西らない。そのような不確実性を知りつつ、西島氏はその時々の相手を「刹那的に」信頼しただ、「ふれ合い」の成立はそう簡単では

で」信じてきたからこそ、夫の「責任ある優で」信じてきたからこそ、夫の「責任ある優してくれる夫のことを、深く、 長く、信頼することができなくなることだった。自分を愛してくれる夫のことを、結婚した。自分を愛してくれる夫のことを、結婚した。自分を愛してくれるそのことを、結婚した。自分を愛してくれるその時々、彼らで」信じてきたからこそ、夫の「責任ある優で」信じてきたからこそ、夫の「責任ある優で」信じてきたからこそ、夫の「責任ある優で」信じてきたからこそ、夫の「責任ある優で」

けた先に、「つながり」の可能性がある。人それぞれが倫理的に悩みながら「ふれ」続れば、つながることができるわけではない。場当たり的に道徳的な「よいふれ方」をすしさ」を受け止められなかった。

「からだ」が「ふれ合い」、つながる「ふれる」ことでつながる可能性を論じるる、盲ろう者の大学教授・福島智を欠かすこる、盲ろう者の大学教授・福島智を欠かすことはできない。

して生きて 指点字によるコミュニケーショ最も詳しく書かれているのが、『盲ろう者と指点字はどのように生まれたのか。それが



指点字が考案されたのは、福島の耳がほと程が記述・分析されている。程が記述・分析されている。

その後に進学した盲学校の生徒や教師は福島のために指点字を使ったが、複数人での指島では、その文脈が分からない。福点字の会話では、その文脈が分からない。福点字の会話では、その文のための情報提供を島も日常会話の中で自分のための情報提供を島も日常会話の中で自分のための情報提供を島も日常会話で指点字を打ったのだ。これなた、直接話法で指点字を行ったのだ。これなら簡単に文脈も追えると福島は感じ、さらなら簡単に文脈も追えると福島は感じ、さらなる研究の末、指点字を完成させた。

出したのだ。
出したのだ。
出したのだ。

それが「からだ」なのだろう。
(石透)
それが「からだ」なのだろう。
、気気を持らは決して湿ざり合うことはない。勇気を持らは決して湿ざり合うことはない。勇気を持らは決して湿ざり合うことはない。勇気を持

島がやってきて、「偉そうに」何か言う。普

島の母・令子が台所で用事をしていると、福を諦観し始めていた一八歳の三月だった。福

んど聴こえなくなり、孤独と絶望の中で全て

新刊コーナー

ルト語練習問題を読めば著者が彼らを最大限

言語の七番目の機能 ローラン・ビネ著 高橋啓訳 創元社

た」。これは歴史的事 会食後、車にはねられ ミッテラン大統領との

ロラン・バルトは



実である。そこから「物語」が始まる。 るニュース、「ロラン・バルト氏が亡くない しい影が人気のない病室に。やがて告げられ な表情。何か持ち去られたのか? そして怪 イヤール警部。そこで彼がバルトに見た不審 交通事故の検証のために病室へと赴いたバ

的な会話の中身はギャグそのもの。序盤のバ を吐きまくる。それもそのはず、彼らの衒学 何を喋ってるのかさっぱりだ!! アカデミッ も遭遇した。さて彼らの会話ときたら……。 サールに会いにアメリカの学会へ、デリダに ク言説に全く馴染みのないバイヤールは悪態 フーコーを追いかけてゲイ御用達のサウナへ ルトと親交のあった知識人たちを訪ねて回る。 バルトの許から消えたものは? 警部はバ

> うな論理バトル……? する。そして、ローマ時代の剣闘士競技のよ ように言葉を記号として扱い、一世を風靡し 戯画化しているのが見て取れる。かつてこの カール・デスタン等政治の世界の人間も登場 加えてミッテラン、(最近亡くなった)ジス 現代思想をかじった人ならお馴染みの面々に た学者たちへの大いなるアンチ・テーゼか。

虚構と戯れてほしい。 た言葉によって作られたフィクション世界で これは風刺? ミステリー? 記号と化し 9月刊 ねこ

(四九六頁 本体三〇〇〇円

ムシカ 鎮虫譜

実業之日本社 井上真偽著

虫の声も恋しくなっ さを忘れて夏の瀬戸 てくるこの季節。寒 冬本番、そろそろ



主人公たち五人の音大生はスランプや才能

(三九六頁 本体一七〇〇円

9 月刊

の苦手なムシもきっと出てくるに違いない。 扱いだから、蜘蛛に蛇まで暴れだす。あなた せなければ島中の生き物が虫に食い殺される だった。さらに、儀式に用いる「手足笛」の の大群と、演奏で虫を鎮める奇妙な巫女集団 に向かう。しかし、待っていたのは凶暴な虫 の壁に行き詰まった末、音楽の神様を祀る島 活躍を見せる。主人公に至っては作曲科であ が次々に繰り出され、壊れた楽器さえ思わぬ 立ち向かう音楽サイドも多彩で、自由だ。演 の島では漢字に虫がつく生物は全部「ムシ」 を克服しなければ生還することはできない。 事態に。唯一の武器― 盗難事件に巻き込まれ、犯人から笛を取り返 奏会ではまずお目にかかれない型破りな奏法 本書で襲い来る虫は昆虫とは限らない。こ 、演奏の術を持たないのだが……。 ――楽器を手に取り、壁

読み終える頃にはあなたも虫が少しだけ好き さまは、爽やかでまぶしい。もしかしたら、 になっているかもしれない。 闇の中で音楽本来の楽しさを思い出していく 説として読むもよしだ。恐怖と策謀がめぐる のラストが本書にも用意されている。推理小 しく、数多の謎が一つの真相に収束する圧巻 説のつもりで読むのもいい。そして、青春小 ミステリ界の新鋭として注目される著者ら (投稿·木星

大桑社 対へて忘れてしまうから

うにシーツにくるうにシーツにくる

番幸せだった



ったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当ったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当だ、どことなく愁情を感じさせるものであったり、何か大切な教訓に富んでいるものであったり、何か大切な教訓に富んでいるものであったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当にしたり、何か大切な教訓に富んでいるものであったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当まったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当まったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当まったりと、読み飛ばせる部分がどこにも見当

夏の文章に、不覚にも僕は泣かされてしまっ の想い……。決して多くを語らないたった三 家があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいね」。このやり 泉があってさ」「温泉か。いいる人が常に一

には、思わず脱帽してしまう。

(二三一頁 本体一五○○円 7月刊)

酒寄進一訳・東宣出版コーカサスの白墨の輪アルトゥロ・ウイの興隆/

兆年する。皮合こと のコーカサス。豪 た太守夫妻は、幼 た太守夫妻は、幼 た太守夫妻は、幼 を太いを残し



混乱は収まり、太守夫人が帰る。夫人と料理は身を賭して彼の世話をすることに。やがて逃奔する。彼らに仕えた料理女のグルーシュ

女の母親を巡る対立、そして大岡裁き。 女の母親を巡る対立、そして大岡裁き。 白墨の輪の中にいる子供の手を二人の女が 白墨の輪の中にいる子供の手を二人の女が おりジナルな点もある。それは物語の中心と オリジナルな点もある。それは物語の中心と なるグルーシュが母であり、かつ恋する女でなるグルーシュが母であり、かつ恋する女で ああること。見つかれば即ち死、そんな運命もあること。見つかれば即ち死、そんな運命もあること。見つかれば即ち死、そんな運命もあること。見つかれば即ち死、そんな運命もあること。見つかれば即ち死、そんな運命もあること。見つかはに母親としての愛を抱く。しかし出征しか彼に母親としての愛を抱く。しかと明神の事の深みを生む。 女の母親を巡る対立、そして大岡裁き。

「適材適所とはこのこと/子どもは母たる「適材適所とはこのこと/子どもは母たる人の元でこそよく育つ」、グルーシュの愛を人の元でこそよく育つ」、グルーシュの愛を根部のもう一つの筋が見えてこないか。そ本戯曲のもう一つの筋が見えてこないか。そ本戯曲のもう一つの筋が見えてこないか。そ本戯曲の方にじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望りにじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望りにじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望りにじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望りにじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望りにじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望りにじっくり読み返す時、ブレヒト流の希望の物語が見えてくるだろう。

すばる舎 永松茂久著 人は話し方が9割

けよう……)へ、どうやって話を続だ?」「(えっと、だ ん だ ん だ ん



へえ、そうなんだ……」こんな経験、ないだへえ、そうなんだ……」こんな経験、ないだろうか? 「もっと上手に話したい」と思う

葉

本書の要旨はタイトルの通り。「人は話し本書が重要視するのは、「話し方」よりは、本書が重要視するのは、「話し方」よりは、本書が重要視するのは、「話し方」よりは、本書が重要視するのは、「話し上手とは聞き上手」という考えから、いかに人の話を聞くかを本書で紹介している。その中でも著者が推薦するのが「拡張話法」という話し方(聞き方)だ。冒頭の会話法」という話し方(聞き方)だ。冒頭の会話法で、相手の発言を繰り返し、共感する」という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、という人にオススメだそうだ。簡単に言えば、

これだけをみると、本書はただのハウツーこれだけをみると、本書はただのハウツーさい。著者が「拡張話法」などのメソッドをない。著者が「拡張話法」などのメソッドをない。著者が「拡張話法」などのメソッドを合う環境さえあれば、あなたは上手に話せ合う環境さえあれば、あなたは上手に話せる」」ということだ。会話は人間と人間のコる」ということだ。会話は人間と人間のコる」ということだ。会話は人間と人間のコる」ということだ。会話は人間と人間のコる」ということだ。会話は人間と人間のコスムーズな会話を成り立たせるという。 (出席点) に、きっとその通りなのだろう。 (出席点) に、きっとその通りない。

別のしかたでツイッター哲学

千葉雅也著 千葉雅也著

が、 A こうよ 「覚え 情に何らかの形で 常に何らかの形で 常に何らかの形で

アイッター哲学 乗 巻 セ

著者の千葉雅也は有限性の問題に違う角度かそれを受け入れ、納得しようとする。しかし、方で、私たちは「意味」を与えることにより

のしかた」を探っていくか。それが本書のテの非意味さを受け入れ、その中でいかに「別ら光を当てる。自らに課せられた有限性、そ

ーマとなる「有限性の哲学」である。

本書「ツイッター哲学」の興味深い点として、著者が、従来SNSツールとされてきたツイッターを「非意味的切断」の道具としてツイッターを「非意味的切断」の道具としていう制限が存在する。その制限の理由を考えることもできるが、突き詰めてしまえばそこることもできるが、突き詰めてしまえばそこることもできるが、突き詰めてしまえばそこることもできるが、突き詰めてしまえばそことがさればない」。そのような「有限性の哲まとめた本書は、自身による「有限性の哲まとめた本書は、自身による「有限性の哲まとめた本書は、自身による「有限性の哲学」の実践とも言えるだろう。

活をも「別のしかた」へと誘っていくだろう。 専門られるのも、本書の魅力の一つである。 専門られるのも、本書を通して浮かび上がるのは、安易な極端、過剰に対する著者の抵抗的なスタンスを、本書を通して浮かび上がるのは、安易なだ。加/減、公/私、接続/切断……。「ほだ。加/減、公/私、接続/切断……。「ほだ。加/減、公/私、接続/切断……。「ほだ。加/減、公/私、接続/切断……。「ほだ。加/減、公/私、接続/切断……。「ほだ。加/減、公/私、接続/切断……。「ほだ。加/減、公/私、接続/切断に入る。専門られるのも、本書の魅力のも、ないのも、という言葉には収まられた文章に触れる。

(二一六頁 本体七八○円 11月刊)

ルポ福島白い土地

三浦英之著 集英社クリエイティブ「帰還困難区域」とその周辺

白地」という

行政用語がある。



に住民を避難させてしまうのだ。「放射能のに住民を避難させてしまうのだ。「放射にの呼ばないではないではないではないではないがではたくさんの子供たちが遊んでいた。あなた方の行為は、あるいは「殺人罪」だみ予測が分かっていたら、私は決して町民に住民を避難させてしまうのだ。「放射能のにをはるのではないですか――。」

でしってほしい。 (きもの)過去にしないためにも、そこにある人々の今い。土地を喪うとはどういうことか、事故を亡くなった。しかしまだ被害は終わっていなた。子供たちは大人になり、幾人かの人々がちょうど震災から一○年という歳月が流れ

⑥その結果が次の政策に影響を及ぼす。

(二五六頁 本体一八〇〇円 10月刊

社会問題とは何か

ジョエル・ベスト著

筑摩書房

くない。では社会問題が大とない。では社会問題が大となり、多くの人々が消費に走るがは登りをいまれた。



が関わらざるをえない世間の事象である。世界に溢れる社会問題もまた、あらゆる人間くない。では社会問題となるとどうか。この

本書は、「何を」社会問題とするかではなく「いかに」社会問題が展開されるかを論じく「いかに」社会問題――性差別、気候変動、アあらゆる社会問題――性差別、気候変動、アあらせじる構築物と捉える発想だ。①申し立から生じる構築物と捉える発想だ。①申し立から生じる構築物と捉える発想だ。①申し立から生じる構築物と捉える発想だ。①申し立から生じる構築物と捉える発想だ。①申し立から生じる構築物と捉える発想だ。①申し立から生じる構築物と捉える発想だ。①申し立る世界的名誉が展開されるかではなる世界的名誉が表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現して著者の表別を表現されるからいる。

いう点からも、いま注目の訳業だ。 本書の主張を異国人がどう相対化できるかど 勢に貫かれている。米国の社会運動に基づく 修める者なら、これは心すべき指摘だろう。 しする権利が付与される。 例えば医学に精涌 在とされる。また専門家には社会問題に口出 力となり、時には問題に目を背ける多様な存 ーに反応する大衆は、時には社会変化の推准 れない。絶えず噴出するニュースのストーリ 自ずと参与することとなる。問題の当事者は 義することで問題をフレーム化する。 学問を 勿論のこと、そうでなくとも無関係ではいら した者は、トラブル状態を医療問題として定 この六段階の社会問題過程の中に個々人は 主観を重視する研究とはいえ、客観的な姿 (三八四頁 本体一八〇〇円 11月刊

日本アーレント研究会編アーレント 読本

なにかの拍子に、なにかの拍子に、なにかの拍子に、

長いことつき



古典はそんなに甘くない。
古典はそんなに甘くない。
古典はそんなに甘くない。
古典はそんなに甘くない。
古典はそんなに甘くない。

私たちは労働に支配され、労働する動物に成 私たちは労働に支配され、労働する動物に労 かも しれない ――「たしかに労働と仕事ってちょっと意味合いが違うかも ……。自分が普段してるのはどっちなんだろう? というかそもそも、なんでこんなに働 くことが重要視されてるんだろう?」

(四三○頁 本体三二○○円 7月刊) (四三○頁 本体三二○○円 7月刊) には見えなかった襞が、今、本書を通じて朧には見えなかった襞が、今、本書を通じて朧とがすがながら見えてくる。

投稿募集のお知らせ綴葉編集委員募集および

『綴葉』編集委員会では、編集委員を新たに

若干名募集します。

対象は、京都大学生協加入者で大学院の修 大学には毎月若干の活動手当と、書評で取 集委員には毎月若干の活動手当と、書評で取り上げた書籍の代金が支給されます。 の上げた書籍の代金が支給されます。編 り上げた書籍の代金が支給されます。編

> 大課程ないし医学部の五回生以上、そして右この仕事を継続して行うことが出来る方です。この条件を満たし編集委員としての活動を を受員会への参加希望の旨を明記の上、生協 集委員会への参加希望の旨を明記の上、生協 集委員会への参加希望の旨を明記の上、生協 を受けるかでです。 をです。 をです。 をい。追ってご連絡差し上げます。

ない可能性がございます。悪しからずご了承ない可能性がございます。ふるってご投稿下さい。代(上限二五○○円)および薄謝を図書カー代(上限二五○○円)および薄謝を図書カー代(上限二五○○円)および薄謝を図書カー

ない可能性がございます。悪しからずご了承まい可能性がございます。 「新刊/新書コーナー」:新刊二〇字×三 「新刊/新書コーナー」:新刊二〇字×三 の「新刊/新書コーナー」:新刊二〇字×三 の「新刊/の書籍を対象とします。

けます。宛先は本誌表紙を参照して下さい。②「話題の本棚」:三〇字×四二行。出版さる・総ページ数・発行年月・本体価格と投稿名・総ページ数・発行年月・本体価格と投稿名・総ページ数・発行年月・本体価格と投稿名・総ページ数・発行年月・本体価格と投稿名・総ページ数・発行年月・本体価格と投稿名・総ページ数・発行年月・アの書籍を対象とします。

(三) 四頁

本体九〇〇円

10月刊

物語 東ドイツの歴史

河合信晴著 中公新書

東ドイツー

-その呼称を聞いて、

あなたは

タイトルにもあるとおり、本書は哲学業界

気味なイメージが胸に沸き起こるはずだ。 観主義を固持し、遂に物語は西ドイツによる 期もあった。その状況下でも権力者たちは楽 が膨らみ、逃亡者やストライキが多発する時 営は、まさしく敵だらけの中続けられた。 りない政治の内実を露わにする。その国家運 とした語り口で、分断国家における困難極ま の文献と図表を駆使しながら、簡明かつ毅然 書であり、また入門書でもある。著者は多数 本書は、同国に関する本邦最新の通史的研究 の組織シュタージだろうか。いずれにせよ不 壁だろうか。それとも、国民を監視した恐怖 何を連想するだろう。東西ベルリンを隔てた 本編を繋ぐ充実のコラムも必読だ。 反感を抱かれる。国内でも絶えず民衆の不満 同じ共産圏の東欧諸国からは大戦に起因する 吸収合併」という結末を迎える。 へにもなじみ深い愚かしさを伝える。なお、 親玉のソ連には曖昧な態度で振り回され、 そのような型に嵌った印象から距離を置く 古くて新しい亡国の生々しい史実は、現代 <u>ک</u>

現代哲学の最前線 NHK出版新書 仲正昌樹著

のを眺めてみていただきたい。 の手で、この「最前線」の議論の先にあるも 登場したキーワードを手掛かりに、読者自身 ある。ここで概観される議論が、ひとつの を解決するツールとしての哲学への違和感で 丸分かりできてしまうような哲学、社会問題 筆の根底にあるのは、哲学者の名前を羅列で じを紹介することは避けるが、著者の本書執 冊の本になりうるほどの重厚なテーマである。 つのテーマは、どれをとってもそれ単独で一 年話題の「新しい実在論」――各章が扱う五 学」の問題、および、ガブリエルを筆頭に近 員しながら分析的手法で論じられる「心の哲 問うた自然科学との関わり、科学的知見を動 の系譜、論理実証主義以降の「自然主義」が 主義からプラグマティズムに至る「承認論 ールズやサンデルらによる「正義論」、構造 なテーマの「最前線」を案内してくれる。ロ 内において現在進行形で論じられる、ホット 「答え」に収束することはない。各章の中に 紙幅の都合上、ここで各章の議論のあらす (二八八頁 本体九〇〇円 7 月刊 八四雲

自由へのエチカ 國分功一郎著 はじめてのスピノザ 講談社現代新書

力を、スピノザは与えてくれると述べる。 かもしれないもう一つの近代」をめぐる想像 てスピノザを扱っていた。國分は「ありえた などで有名な國分功一郎は、博士論文におい スピノザが生きた一七世紀は近代の形成期 『暇と退屈の倫理学』や『中動態の世界』

る。彼によれば真理とは、知ることではなく た本こそが主著『エチカ』だ。 ップズが近代の土台を作るこの時代、哲学で だ。科学ではニュートンが、政治哲学ではホ 自分自身を変容させるものなのだ。 は変化を生み出すものとしての真理を記述す 違いは面白い。疑いと検証に耐えられるもの いく。そうした中で「どう生きるか」を論じ 志への疑いや心身二元論の不可能性を論じて はデカルトが主流となっていく。しかしスピ として真理を描くデカルトに対し、スピノザ ノザはデカルトを批判していく中で、自由章 中でも真理をめぐるデカルトとスピノザの

も変わるかもしれない。 ノザの知を知ることで、あなた自身の生き方 (一八四頁 本体八六〇円 きもの

近代の土台とされた価値観への疑い。スピ

11月刊

問題】「なぜ山)

分かるんだ!! 「なぜ山……」問題文の途中でボタンが鳴る。「マロリー!」 なぜ

山がかつて経験したことのない、世界が広がっていた――。 山がかつて経験したことのない、世界が広がっていた――。 世があっと驚く瞬間。コンマ数秒の勝負。答えた側も見ている まずは『ナナマルサンバツ』だ。本作品は「競技クイズ」に立ち 向かうクイズ研究会の高校生たちを描いた漫画だ。タイトルの「ナ ナマルサンバツ」とは、「最初に七間正解したら勝ち。ただし三回 誤答したら失格。」という競技クイズのルールから取られている。 まずは『ナナマルサンバツ』だ。本作品は「競技クイズ」に立ち のの、その内気な性格からなかなか友達ができない。読書が人一倍 好きで、いつも本に齧り付いている。そんな越山は、同じクラスの 好きで、いつも本に齧り付いている。そんな越山は、同じクラスの 好きで、いつも本に齧り付いている。そんな越山は、同じクラスの がかつて経験したことのない、世界が広がっていた――。

「世界三大珍味とは、キャビア、ト……」「悪貨は良……」「おい、本作品にはぎゅっと詰まっている。

ズ 突然アタマが鋭くなる!』を紹介しよう。本書は京大クイズ本も出版している。そこで京都大学にもクイズ研究会の『最強京大クイ本・競技クイズのことが分かったところで、我々の大学に目をさて、競技クイズのことが分かったところで、我々の大学に目を

の知識試しに本書を取ってみるのも一興だろう。
がらの作った問題は、簡単には解けない骨太な問題ばかりだ。自分からの作った問題は、簡単には解けない骨太な問題ばかりだ。自分からの下った問題は、簡単には解けない骨太な問題ばかりだ。自分からの下った問題は、簡単には解けない骨太な問題はかりだ。自分が完成したクイズ問題、研究会(以下「クイ研」)の紹介と、彼らが作成したクイズ問題、研究会(以下「クイ研」)の紹介と、彼らが作成したクイズ問題、

らの全貌に迫る。 回は彼らがが手がけた『QuizKnockオフィシャルブック』にて、彼回は彼らがが手がけた『QuizKnockという集団をご存知だろうか。今メディア活動をする、QuizKnockという集団をご存知だろうか。今

QuizKnock(以下「QK」)は、東大卒の伊沢拓司氏を中心に、ウQuizKnock(以下「QK」)は、東大卒の伊沢拓司氏を中心に活動する「東大発の知識集団」ェブ上の記事とYouTube配信を中心に活動する「東大発の知識集団」ェブ上の記事とYouTube配信を中心に活動する「東大発の知識集団」

知識がついている」ことだろう。 寛い知れる一冊だ。本書を読んでいるうちに、まさに「気づいたら話、QKメンバー作成のクイズなど、彼らのクイズへの思い入れを話、QKメンバー作成のクイズなど、彼らのクイズへの思い入れを

違いない。 (出席点) 世界を覗いてみたら如何だろうか? きっと思わずワクワクするに世界を覗いてみたら如何だろうか? きっと思わずワクワクするにか? そこにクイズがあるからだ。肩を張らずに、気軽にクイズのヤーも、それと同じ心境なのかもしれない。なぜクイズをするのな。 そこに山があるからだ……。クイズプレイなぜ山に登るのか? そこに山があるからだ……。クイズプレイ

インドと文学

今回はインドが題材になった小説を紹介しよう。取り上げられ、日常では得られない新しい想像力を与えてくれる。取り上げられ、日常では得られない新しい想像力を与えてくれる。性に満ちている。そんなインドは諸外国の文学においても多様豊饒な土地インドは長い歴史をもち、言語や宗教においても多様

すぐに幻想文学へと誘われる。日本語講師をしており、授業の内容にもリアリティがある。しかし日本語講師をしており、授業の内容にもリアリティがある。しかし

「私」が橋を渡る中で泥の中から、いろいろなものが発掘される。「私」が橋を渡る中で泥の中から、いろいろなものが発掘される。 中には、私の記憶も他者の記憶もごちゃごちゃに眠っている。突然 地には、私の記憶も他者の記憶もごちゃごちゃに眠っている。突然 地になすインドという土地が生み出した文学である。 またインドと解が深いイギリス文学からも紹介しよう。特に薦めまたいのはE・M・フォースター著『インドへの道』(絶版)だ。 イギリス支配下にある小さな町で医師をやるアジスは常にイギリイギリス文をである。 が橋を渡る中で泥の中から、いろいろなものが発掘される。 対応してくれるが、インドという土地では差別を表し眼差しが冷や

案内を務めるが、そこで事件が起きてしまう。偏見なくインド社会を知りたいと好奇心をあらわにする。アジスは

ひ一読してほしい。

でインド人とのつながりの困難さ、それをどう乗り越えるのか、ぜいう相いれない壁の超克を描いている。当時のイギリス社会からみいう相いれない壁の超克を描いている。当時のイギリス社会からみ

力移民二世の三○年に及ぶ人生が描かれている。の長編小説。そこにはベンガル系アメリューリッツァー賞を受賞したラヒリの初ューリッツァー賞を受賞したラヒリの初ジュンパ・ラヒリ著『その名にちなんジュンパ・ラヒリ著『その名にちなん



ゴーゴリは激しい後悔をする……。変えてしまう。しかし、父が何故この名前を選んだかを知ったとき、変えてしまう。しかし、父が何故この名前を選んだかを知ったとき、いう名前を付けた。ゴーゴリは育っていく中で自分の名前に嫌気がいう名前を付けた。ゴーゴリは育っていく中で自分の名前に嫌気がいっています。

分自身が見つからないのだ。とで描かれるのは孤独と自由であり、絆と煩わしさだ。ベンガで、当時では、ゴーゴリにとって煩わしく抜け出したいものだが出来ない。とが出来ない。と前さえ選択できてしまう社会の中で、自かは正にいいが、当ればいいでは、ゴーゴリにとって煩わしく抜け出したいものだが、半と煩わしさだ。ベンガ

ンド文学はいかなるものか、機会があれば紹介したい。 (きもの) 異国から見るインドは常に対照性を露にするものだった。ではイ

やかであった。そんな中、新しく来たムア夫人と義理の娘アデラが

編集後記

「あけましておめでとう」という言葉を聞 いた時、「今年度がもう終わるんだ」と私は 思った。一年という月日がいつもより加速し て流れた。御手洗祭りも、古本祭りも、成人 式も、まるで最初からなかったみたいに姿を 消した。

大学に入るということは時間を手にするこ とだった。夏休みや春休みに、外の世界に行 きたかった。いつも触れ合う日常から離れて、 ディスプレイの向こうでしか見たことのない 世界を肉眼に映したかった。でもそんな願望 は儚く消えた。授業も自宅で受けながら、休 みの日も部屋の中で、退屈な毎日を潰してい る。

入学式のない世界で、あの子は学生になれ たのだろうか。卒業式のない世界で彼女は社 会人になれたのだろうか。移り変わる日常の 中で人は儀礼を必要としてきた。儀式のない 世界は、一筆書きのスケッチみたい。

だからコロナが終わったら大きな式典を開 きたい。世界中がみんなで「終わったね」っ ていえるような、ハグをして笑いあって、触 れ合えることを喜べるようなそんな式を、私 は部屋の中で待ち望んでいる。 (きもの)

当てよう!図書力

2021年になりました。とても明るい気分 になると同時に、「戦争」を研究対象とする 私にとって今年は旧ユーゴ内戦開戦から30 年と色々考えさせられるものがあります。

さてこれに関連して問題です。第二次大戦 から内戦までユーゴスラビアの激動の歴史を 描き切った大作映画はどれでしょうか。

- 1. サラエボの花
- 2. アンダーグラウンド
- 3. パパは、出張中! 4. 人生は、奇跡の詩

(リンダ)

《応募方法》読者カードに答えを書いて生協 のひとことポストに入れてください(または e-mail:teiyo@s-coop.net)。正解者の中から抽 選で5名の方に図書カードを進呈いたします。 締め切りは3月15日です。

月号の解答

10月号の「有名な大文字が灯される山は 選択肢のうちどれでしょう? | の解答は、4. 如意ヶ嶽でした。なお選択肢になかった大北 山にも大文字は点火されます。応募者12名 中12名の方が正解でした。図書カードの当 選者は、ミノガメさん、ぱすかるさん、アラ セイトウさん、は一さん、バエルおじさんさ んです。当選おめでとうございます。(とよ)

がとうございます。現在、

首都圏を中心に第

思いやりに満ちたコメントをどうもあり

防災研・アラセイトウ

一波とみなされる感染拡大が報道されている

各地で公募推薦入試等が実施されていま 教職員の方々の苦労は想像するに余りあ

らえれば、一同励みになります。 「綴葉』を宜しくお願い致します。 生協の書評誌 『綴葉』 を今後も手に取っても

善籍を扱う場合もございます。

あなたが創る

うございます。編集委員や投稿者による選書 本を知れて有難く思っています。 ○コロナ禍での編集お疲れ様です。なかなか へと会えない中、『綴葉』で人のおすすめする にけでなく、読者カードでご紹介いただいた ねぎらいの言葉を下さりどうもありがと 理・ぱすかる

る……そんな未来を願っております。 を迎え、我々と共に『綴葉』を楽しんで下さ るかもしれません。受験生の皆さんが無事春

明けましておめでとうございます。

)多くの人が夏の帰省や旅行を見合わせまし 読者からひとこと

たが年末年始はどうなっているでしょうか。

八試が平穏にできることを祈ります。